

課題No. 3			
課題名		土地利用型農業法人が取り組む加工業務用にんじんの生産安定 (「園芸振興」関連課題)	
計画期間		令和4年度～令和5年度	
対象名及び対象者数		(農) タカギ農産, (農) 中埜ファーム育み, (農) 中田アグリ, (農) サンファームあがと, (農) みらいす青生 (5経営体)	
課題の背景		<ul style="list-style-type: none"> 令和3年産米価格の大幅下落を受けて、農業者の経営安定のために露地園芸作物への一層の転換が推進されている。 美里町内の土地利用型農業法人が加工業務用にんじんを契約出荷により生産する取り組みが令和元年度から始まっている。年々取組面積は増加しており、令和3年度の作付面積は延べ6.0haとなっている。中埜地区の4法人については土地利用計画策定や共同作業などで連携した動きも見られている。 にんじんは比較的、水稻や大豆と作業競合しない作業体系を組みやすく、加工業務用途は出荷規格が簡素で確実な販売が見込めるため、収入源として有力である。 美里町総合計画では10ha規模の土地利用型野菜及び5ha規模の施設園芸を令和7年までに3品目とする指標を掲げており(現在2品目)、にんじん生産の拡大が期待されている。 ほ場の排水対策による湿害回避、肥大性があり割れにくい品種の選定など、水田転作及び加工業務用途に適応した生産技術の向上を図る必要がある。また、天候の影響を受けることが多いため、適期播種や病虫害防除の重要性が増してきている。 水田転作による野菜生産の取組として地域への波及効果が期待される。 	
期待される対象の変化		<ul style="list-style-type: none"> 生産技術の向上により実需者が求める品質が確保され出荷量の増加が図られる。 複数の農業法人が安定して生産することで、実需者への継続出荷が可能となる。 	
県実施方針上の関連項目		1 - (4) 園芸産出額の増大に向けた園芸産地の育成・強化支援 1 - (5) 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援	
地域基本方針上の関連項目		2 - (1) 水田フル活用による先進的な水田農業の確立 2 - (2) 園芸振興と園芸産地の育成支援	
担当チーム員		◎上山啓一, 蘇武 真, 齋藤憲治, 平海水緒, 佐々木美和	担当班及び進行管理責任担当者 先進技術班 町 直樹
令和4年度			
成果指標	定性的目標 <ul style="list-style-type: none"> ほ場条件の改善や適期作業の取組が行われるようになる。 水田転作による高収益作物として経営の基幹品目となる。 		
	定量的数値目標 <ul style="list-style-type: none"> 対象経営体が加工業務用として12月末までに出荷する総量 R4: 7%増, R5: 15%増 70.2t (R3) →75.1t (R4) →80.7t (R5) 		
活動指標	定量的数値指標 (合計総現地活動日数 76日)		
	活動事項 <ul style="list-style-type: none"> 栽培技術向上支援 (病虫害対策, 土壌環境調査など) 26日 栽培体系確立支援 (品種検討実証, 生育確認調査, 現地検討会など) 50日 		
関係機関の主な役割分担項目 <ul style="list-style-type: none"> JA新みやぎみどりの地区本部 (生産販売支援, 事業導入支援など) 美里町産業振興課 (経営体育成支援, 事業導入支援など) ・農業・園芸総合研究所 (生産技術支援など) 			
関連事業名と役割			